

1 基本情報						
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要				
都立動物園		(指定管理者名)公益財団法人東京動物園協会 (団体の概要)昭和23年設立。動物園及び水族園事業の発展振興をはかり、併せて動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献する。				
指定期間						
H28.4.1 ~ H38.3.31(10年間)						
2 施設名		3 収支（単位：千円）				
恩賜上野動物園 多摩動物公園 井の頭自然文化園 葛西臨海水族園		項目		金額		
		収入計		6,203,598		
		内訳	指定管理料	6,120,346		(単位：千円) 恩賜上野動物園 2,152,367 多摩動物公園 1,762,445 井の頭自然文化園 554,395 葛西臨海水族園 1,665,101
			利用料金	0		
			その他収入	83,252		
支出計		6,134,309				
		収支差		69,289		
4 管理運営の概要						
当協会は、以下の3つの基本的な考え方に基づき都立動物園・水族園の管理運営を適切かつ円滑に行った。 ① 展示の工夫と快適な観覧環境の提供による「楽しみながら学べる動物園・水族園」の実現 ② 国内外の関係組織との協力による野生生物の保全への貢献 ③ 公益性と経営感覚を合わせ持った施設運営 各園がその特性を発揮し、また各事業部門が連携することにより、当初計画の通り事業を実施できた。						
5 管理状況（維持管理）						
適正な維持管理：動物園水族園の運営を適正に維持継続するため、施設の維持管理を適切に行った。 (1) 安全安心の確保：日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、危険な状況を早期に発見、速やかに対応し来園者の安全安心を確保した。 (2) 園内植物の維持管理と活用：動物の生息地に合わせた植栽や笹刈り草刈りで基本的景観を保ち、伐採した危険木をエンリッチメントに活用するなど、動物のストレス解消や園の魅力アップにつなげた。 (3) 自然災害への対応：急傾斜地の土留補修や大雨に備えた排水施設の清掃、雪害に備えて単価契約を締結するなど対応を準備した。 (4) 省エネ化への対応：照明施設を省エネ効果の高いLEDに変え、機械設備類を高効率化設備に更新した。 (5) 東京2021オリ・パラ競技大会に向けた施設補修：多摩動物公園と葛西臨海水族園のトイレ洋式化が完了し、4園全て洋式化した。 (6) 東京都工事への対応：都の大型工事が円滑に進むよう調整・協力するとともに、新規オープンにあわせて維持補修を行った。 (7) 動物舎等の維持補修：屋根防水やケージの塗装、放飼場の排水設備補修、飼育員と動物の仕切壁のかさ上げなど安全性、景観性の向上や機能的、衛生的な改善を行った。						
6 利用者アンケート結果						
実施方法： 観覧終了した来園者に対し、出口付近で記入依頼						
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応	
恩賜上野動物園	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	
多摩動物公園	3.7	3.8	3.6	3.6	3.7	
井の頭自然文化園	3.6	3.8	3.6	3.7	3.7	
葛西臨海水族園	3.5	3.7	3.7	3.6	3.6	
7 入園者数の状況（単位：人）						
施設名	当該年度	分析				
恩賜上野動物園	525,999	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年度当初から井の頭は6/1まで、多摩は6/3まで、上野・葛西は6/22まで、また冬期の感染再拡大により4園とも12/26から年度終了まで臨時休園となった。さらに上野と葛西については全ての開園日において、多摩は秋の繁忙期の土日祝日において整理券予約システムによる入場制限を実施したほか、集客をともなうイベントなどもすべて中止し感染拡大防止に努めたため、対前年度比では上野△84%、多摩△51%、井の頭△51%、葛西△74%と、かつて例のない大幅なマイナスとなった。				
多摩動物公園	422,752					
井の頭自然文化園	381,250					
葛西臨海水族園	336,135					
合計	1,666,136					

施設別事業報告書

施設名：恩賜上野動物園



野生生物の情報発信拠点として、飼育・繁殖・保全に関する普及啓発に取り組んだ。ジャイアントパンダ新飼育展示施設「パンダのもり」を9/8に公開し、多くの方にパンダの生態とその魅力を伝えた。また、10/28から、シャンシャンがパンダの未来を明るく照らす存在となることを願う企画「花ひらけパンダの未来～ありがとうシャンシャン～」をスタートし、園内だけでなく上野観光連盟など地域の方々にも協力いただき、トークショーなど様々なイベントを実施した。（返還延期に伴い継続実施中）



9/8 ジャイアントパンダ新飼育展示施設「パンダのもり」公開



花ひらけパンダの未来～ありがとうシャンシャン～

上野動物園139年の歴史で初めてアジアゾウが誕生した。2019年度に孵化したカジカガエルが無事に成長したことをうけ、（公社）日本動物園水族館協会から「初繁殖認定（※）」を受けた。このほか、2020年2月に誕生したキリンの仔について、人工保育を行っていたが、2021年2月から母親との同居を開始した。

※初繁殖認定は、日本動物園水族館協会の加盟施設の中で最初に繁殖に成功したことを認定する制度（従来の繁殖賞の後継制度）



アゾアゾウ（アルン）誕生



カジカガエル 初繁殖認定



2020年2月誕生 キリン（ヒカリ）母親との同居開始

指定管理者名：公益財団法人東京動物園協会



施設別事業報告書

施設名：恩賜上野動物園



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種イベントをオンラインで開催した。シャンシャン誕生日記念イベントでは、ジャイアントパンダ保全の普及啓発活動として、各々が取組む環境保全のためのアクションをTwitterで発表する「パンダアクション」に多くの方に参加いただいた。



オンラインイベント WEB版 うえのZOOスクール
自分だけのおもしろ動物図鑑をつくろう



シャンシャン誕生日記念Twitterイベント
みんなでいっしょに祝おう！考えよう！
シャンシャン3歳記念パンダアクション



世界ゾウの日記念イベント
飼育員目線のカメラで超至近距離での動物解説動画公開

新型コロナウイルス感染防止対策としてソーシャルディスタンスの確保を訴求するPOPを設置したほか、整理券予約システム導入することにより、感染症予防のための適切な入園者数管理を行うことができた。また、11月から券売機のクレジット対応を図り、サービス向上に努めた。

新型コロナウイルス感染拡大防止策



QRコード式整理券の読み取り



ソーシャルディスタンスの確保を
訴求するPOPを設置



券売機 クレジット対応



施設別事業報告書

施設名：多摩動物公園



都立動物園の繁殖基地として、野生生物保全センターの生物工学的技術を活かし、希少動物の繁殖、保全活動に取り組んだ。その結果、チーター、キリン、オランウータン、レッサーパンダなど多くの希少動物の繁殖に寄与した。

チーター誕生



キリン 3頭誕生



オランウータン誕生



レッサーパンダ誕生



環境省の保護増殖事業に協力し取り組んでいるアカガシラカラスバトは、2019年に引き続き繁殖し飼育数は30羽となった。また、2021年度オープン予定の新アジアゾウ舎にアジアゾウ2頭を移動した。新アジアゾウ舎は面積を大幅に拡大したほか、足の負担を軽減するため砂の床面にするなど動物福祉にも配慮した施設となっている。



アカガシラカラスバト孵化



新アジアゾウ舎に移動した2頭のゾウ

指定管理者名：公益財団法人東京動物園協会



施設別事業報告書

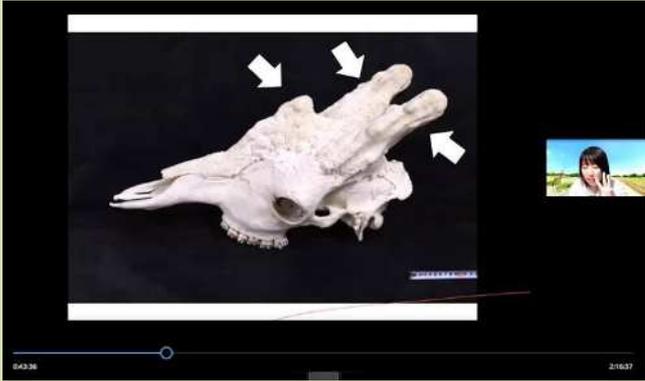
施設名：多摩動物公園



新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一部のイベントは感染拡大防止対策を行い、実開催が困難な講演会等についてはオンラインにて開催した。アフリカを身近に感じていただく「アフリカフェア」もオンライン開催とし、在京アフリカ大使館から2か国の参加を得て、都立動物園とともに、アフリカ現地において新型コロナウイルスがもたらした影響や野生生物保全の現況についての報告があり、相互協力の可能性を討議した。来年度オープン予定のライオン園ではライオンの放飼練習やバスの試走を開始した。



セルフガイド方式のプログラム「うんち・しっぽクイズ」



オンライン講演会「キリンについて」



アフリカフェア（オンライン開催）



ライオンバス再開にむけ
ライオンの放飼練習・バスの試走を開始

新型コロナウイルス感染防止対策として、ソーシャルディスタンスを保った入園列の管理や、整理券制の導入により、繁忙期の園内混雑を防止し適切な観覧環境の維持を行うことができた。そのほか、ゾウの飼育に関する教育研究活動の拡充に向けた連携・協働に関する協定を、札幌市円山動物園と、締結した。

新型コロナウイルス感染拡大防止策



ソーシャルディスタンスを保った入園待機列の調整



札幌市円山動物園との協定締結

指定管理者名：公益財団法人東京動物園協会 

施設別事業報告書

施設名：井の頭自然文化園



日本産動物や小型動物を中心に飼育展示する井の頭自然文化園では、環境省に協力し日本固有の希少種アマミトゲネズミの飼育を新たに開始したほか、かいぼりで復活した水草「イノカシラフラスコモ」の育成を水生物園で開始した。

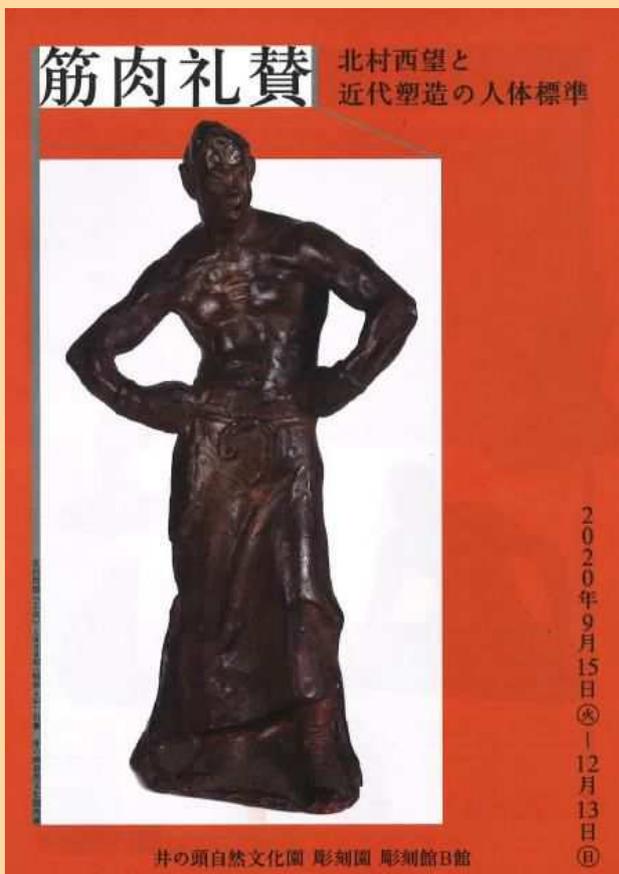


アマミトゲネズミの飼育開始



イノカシラフラスコモの育成開始

2019年度より配置となった学芸員を中心に、彫刻館企画展を開催したほか、TwitterやYouTubeで展示作品を紹介した。そのほか、絶滅危惧種ツシマヤマネコの保護と繁殖の取り組みについて、園内での展示やウェブ上での普及啓発を行った。



彫刻館企画展
「筋肉礼賛—北村西望と近代塑造の人体標準」



彫刻館展示物をTwitterで紹介



ヤマネコ祭り ツシマヤマネコ保全 普及啓発ボード展示

指定管理者名：公益財団法人東京動物園協会



施設別事業報告書

施設名：井の頭自然文化園



ウェルカム展示として季節に合わせた動物・昆虫・植物の展示を行い、利用者サービスにつとめた。Twitter、Instagram等のSNSで飼育動物やフォトスポットを紹介したほか、あらたに制作した園のPR動画は屋外ビジョンでも上映し広く魅力を発信した。Twitterで公開したリスの水浴び動画は話題となり拡散され、再生数は380万回に達した。



ウェルカム展示「アゲハの幼虫」



井の頭自然文化園PR動画作成



都立動物園・水族園 公式Instagram開始
井の頭 足フォトスポット紹介



Twitter投稿 水浴びをするリスの動画

各所に消毒用アルコールを設置し、手指の消毒を促すなど新型コロナウイルス感染防止策に取り組んだ。



消毒用アルコールの設置

指定管理者名：公益財団法人東京動物園協会

施設別事業報告書

施設名：葛西臨海水族園



2019年に引き続き、オウサマペンギンやメンダコが孵化するなど、希少生物の繁殖の取り組みを進めた。また、2019年度孵化したウィーディシードラゴンが無事に成長し、（公社）日本動物園水族館協会から「初繁殖認定」をうけた。



オウサマペンギン孵化



メンダコ孵化



ウィーディシードラゴン初繁殖認定

海鳥の保全や持続可能な海洋資源の活用を目指した北海道羽幌町とのパートナーシップ協定に基づき、パネル展や講演会を開催するなど園全体で海洋・海鳥保全の普及啓発に取り組んだ。また、希少種の保護や増殖について一定の基準を満たす動植物園等を環境大臣が認定する「認定希少種保全動植物園等」制度において、都立動物園・水族園では初めて認定された。



羽幌町とのパートナーシップ協定に基づく連携事業
オンライン海鳥講演会



「認定希少種保全動植物園等」制度認定

指定管理者名：公益財団法人東京動物園協会



施設別事業報告書

施設名：葛西臨海水族園



国立研究開発法人 水産研究・教育機構との共同企画展示として、特設展示「魚が食べたい！！ きみはおさかなエージェント」を開催。水産物の持続的利用について紹介した。水族園のスタッフが「生き物の見方（ミカタ）」を紹介すると共に、「生き物の味方（ミカタ）」として、生き物や自然環境を守るためにできることを宣言する「いきもののミカタ宣言」動画をYouTubeで公開した。その他、YouTubeLive配信やオンライン会議ツールを積極的に活用した新たな形での教育普及プログラムを多数開催した。



特設展示
魚が食べたい！！ きみはおさかなエージェント



オンラインイベント「海のおそびや2020」第1回
くらべてみるとおもしろい・クロマグロとくらべてみよう



開園記念イベント
特別配信 YouTube LIVE 水族園でマグロを極める

新型コロナウイルス感染拡大防止対策



いきもののミカタ宣言2021

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、整理券制による入園者数管理を行ったほか、アバターロボットを使用し、モニター越しに遠隔で解説を行うなど、様々な施策を実施しお客様が安心してご利用いただける環境づくりに取り組んだ。



アバターロボットを使った解説

指定管理者名：公益財団法人東京動物園協会

